

百人一首を書きましよう。

今来むといひしばかりに長月の

有明の月を待ち出でてつるかな

【現代語訳】

貴方が「すぐに行く」と
言ったから、九月の有明の
月が出るまで待ってしま
いました。

素性法師

吹くからに秋の草木のしをるれば

むべ山風をあらしといふらむ

【現代語訳】

吹くとすぐに秋の草木が
しおれてしまうので、なる
ほど山嵐をあらしと言うの
だろう。

文屋康秀

月見ればちぢにもものこそ悲しけれ

わが身ひとつの秋にはあらねど

【現代語訳】

月を見ると、色々な物事が
悲しく感じられる。私一人
だけに来た秋ではないのだ
けれど。

大江千里

このたびは幣も取りあへず手向山

紅葉の錦神のまにまに

【現代語訳】

今回の旅は急なことでした
ので幣の用意も出来ませ
でした。手向山たむけやまの紅葉を
神のお心のままにお受け
下さい。

菅家